

審査講評

審査長 越佐昆虫同好会会員 山本 敬一
越佐昆虫同好会会員 榎並 晃
越佐昆虫同好会会長 中野 潔
胎内昆虫の家 館長 遠藤 正浩

1 出品状況など

今年、七・八月の天候不順で昆虫類の出現が大きく減少し、昨年度の「県下生物・岩石標本展示会」より出品点数が減少するのではと心配していましたが、小学校34点、中学校5点、計39点と昨年より3倍以上の出品がありました。学校数も小学校11校、中学校4校と増加し、中でも小千谷南小学校は学校単位で取り組み、18点の出品となりました。また、久しぶりに佐渡からも出品があり、しかも分布上希少な種も出品されました。標本の公開は新潟県内の分布状況データの一助になるものです。この標本展のねらいの一つともいえるでしょう。近年、温暖化や自然環境悪化により、多くの種が減少傾向にあります。一方でかつて新潟県内に記録のなかった種が話題になることもあります。みなさんが目にした昆虫を採集し、記録に残すことで、より確実に変化の様子を知り得ることになるので、多くの人から標本を出品してほしいと思います。

2 標本づくりについて

今年出品要項に、作品作りのポイントとして、標本箱、針の刺し方、ラベルの付け方を細かく示してありました。その結果、出品作品はよく整理されていました。したがって、出来栄はかなりレベルの高いものでした。しかし、標本の価値は美しさだけでなく、正確なデータの裏付けが必要です。いつ「採集年月日」、だれが「採集者」、どこで「採集地」採ったかが大切になります。残念ながら採集地に「家の近く」「**山」など、採集した本人しか分からない表記、採集年月日とその種が出現するはずのない日付が記されているのも散見されました。ラベルはだれが見ても正確な情報を確認できるものでありたいものです。一つのみスデータは、全てに及び作品評価を下げしまいますから、十分に注意をしてください。

種名はできるだけ自分の力で調べるようにしましょう。分からないものまで無理に名をあてる必要はありませんが、図鑑を見て調べる習慣は、種を見分ける力を必ず伸ばします。いずれ現地で初見の昆虫でも、直感が働くようになるので、継続してほしいものです。

自然観察を続けると、昆虫の生態に興味が出ると思います。その時は、活動様式なら、天候、時間、気温等に気を配り、食べ物なら草食か肉食か、草原か森林か水辺かなど環境要素にも配慮が必要になります。

また収集に当たってテーマを決めると採集活動も効率が上がるようになるはずです。今回金賞、銀賞に入賞した作品を見ると参考になると思います。さらに、継続することで標本が増えます。増えた標本を整理することで、新しいテーマが見つかることでしょう。そのために標本を大切に保存することも必要になります。その基本を出品要項を参考にして、次の標本づくりに臨んでください。

3 印象に残った作品など

「妙高市 鮫ヶ尾城周辺の蛾の生態」は、一般の人に嫌われがちな蛾を丁寧に処理し、美しく仕上げています。蛾ってこんなに美しいのかと新しい発見をする人もいると思います。「佐渡のちょう」は久しぶりの佐渡市からの出品です。海を挟んで本土から北寄りに位置しながら対馬海流の影響で本土側より暖かい環境下にある佐渡は、生物相に違いを見せ、暖地系の種が多く生息しています。しかし近年その実態が詳しく調べられていません。佐渡で昆虫少年が育つことを期待しているところです。「地表・地中で活動している昆虫 ～地質の違いによる昆虫の種類の調査～」は一見何もいないように見える場所に多くの昆虫が生息し、落ち葉や生き物の死骸など、人間からは無駄に見えるものを処理し、自然界の大きなサイクルを回していることを教えてください。生物の多様性に目を向ける大切な標本です。

標本の輸送は大変な作業ですが、ミドリシジミ類など翅裏を見ることが同定に欠かせないグループもあるため、箱から取り出せなくならないように標本を固定する必要があります。「佐渡島におけるチョウ類の生息状況について」ではシータテハの翅裏を視認できるようミラーを使っており、なるほどと思いました。

4 注目すべき記録

鮫ガ尾城のフジキオビは新潟県で60数年ぶりの記録となります。ナツツバキを食し、5月頃に出現します。蛾では数少ない日中に活動する種です。「佐渡のちょう」には本土側で少ないホソバセセリが含まれていました。また「佐渡島におけるチョウ類の生息状況について」にはミスジチョウがありました。ミスジチョウは本土側では少しずつ広がりを見せていますが、佐渡での記録は少ないものです。

今年のセミの鳴き声は？、アカトンボの量は？など、特別気にしていない普通の現象にも気を配ることで、自然界の変化に気づくことができます。ぜひ、今後も虫に関心を持って標本作りに取り組んでください。

事務局より

今年度は「県下生物・岩石標本展示会 昆虫標本の部」から名前を変えて再出発となりましたが、予想以上に多くの方から標本の出品をいただきました。賞に関わらずどの作品も昆虫への好奇心と熱意が感じられる素晴らしいもので、審査員の先生方もひとつひとつの作品をじっくりと吟味してアドバイスしてくださいました。

昆虫標本作りは様々な要素を含み非常に優れた理科学習です。始めてすぐによい作品ができるわけではなく、地道な継続がすぐれた作品を生み出します。ぜひ今後も昆虫観察・採集と標本作りに取り組み続け、より充実した標本の制作と、アイデアを生かした自分だけの観察・研究に励んでください。みなさんの次の標本作品に会えるのを楽しみにしています。